



みなみやま

発行責任者 / 太田信吉 編集発行 / 愛知国際病院内・病院だより委員会
〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31 ☎(0561)73-7721



アジアと地域の健康のために生きた 川原啓美先生の思いを引き継ぐ

院長 太田信吉

2015年5月22日、当院の設立者である川原先生が天に召されました。最後はご自身の始めたホスピスで、ご家族に囲まれて過ごされました。その穏やかな表情は私たちを慰めましたが、やさしく凜とした声が聞けないことはご家族だけでなくスタッフにとっても寂しいことです。

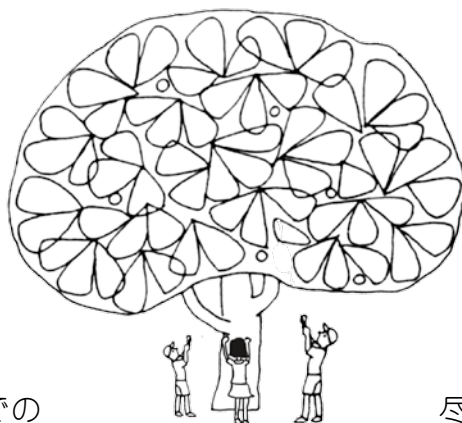
しかし、川原先生は本という形でその言葉を残されました。中日新聞の連載コラムから「ひとすじの道—診察室からアジアから」（ライフ企画1998年）、「分かち合いの人生」（ライフ企画2005年 病院で購入可）、職員に向けてお話しされた内容をまとめた「年若き友人たちへ」（ライフ企画2011年 AHIで購入可）、「アジアと共に—自立のためのわかちあい—」（キリスト教新聞社1986年）さらにホスピスができるまでの

「わたしたちのホスピスを作った」（日本評論社1998年）です。

これらの本の中で、医師を志したきっかけは、戦争で生き残り、友人をなくしたことで、これからどう生きて良いのかと考えていた時に与えられた聖書の言葉だったとあります。「イエスは私たちのために命を捨てて下さいました。そのことによって私たちは愛を知りました。だから私たちも兄弟のために命を捨てるべきです。」（ヨハネの手紙—3章16節）

先生は、キリストの十字架が自分自身のためでもあったのだと知り、自

分の全存在、自分の命を捨てるくらいの気持ちで人のために生きていくことは何かと考えました。そこで当初希望していた学部ではなく直接人のために自分の力を尽くすことができる医学部に進



学しました。愛知国際病院の基本方針にある、「キリスト教精神に基づく全人的医療」には、このような想いが基にあるのです。

大きな転機は1976年の短期ネパール医療協力でした。英語の教科書にも載った有名な話ですが、そこで出会った下腿に皮膚がんを持った女性の「下肢がなくなって生きるくらいなら家族のために死を選択する」ということに衝撃を受け、アジアの人々の健康の増進のためにその活動を支えるアジア保健研修所(AHI)を1980年に始められました。多くの方のご理解と協力のもと、愛知牧場の隣のこの地にAHIと病院を建て、開院式を1981年2月28日に行い、暁子(さとこ)夫人と共に愛知国際病院を始めました。その中で大切にしたのは、平等性と透明性でした。だれが偉いのもなく医療者と患者さんが平等であり、何をどうしているのかをはっきりさせ、医療を受ける人たちに納得できるようにするという事です。またスタッフ間でもお互いを〇〇さんと呼び合うことも、よしとしておられました。

家に帰りたいたいという患者さんの思いに応えて、みんなが協力して訪問看護にも取り組んできました。また、病院を自分自身で始めたのではなく、みんなが意見を出し合っただけで始めたということを言われています。高齢者のケアを行う老人保健施設愛泉館を1992年に開設し、1999年にはがんの終末期の方がその人らしく過ごす場所としてホスピスを市民の方々とともに愛知県で初めて作りました。

このように川原先生は、自分の全人生をかけて人を愛することを追い求めて実現して来

られました。病気の中でも職員と時間を過ごし、自分の思いを伝えながら、生きている意味を見だし、また希望も持っておられました。「年若き友人たちへ」の中で、『常に新しいことが自分の目の前にでてきたときに、それに向かって挑戦してみよう、新しい経験をしてみよう、という気持ちが自分の中にまだあることを発見したということです。これはとてもうれしいことです。』と書かれています。

また、人生を共に歩み一緒に夢を見てきた暁子夫人を亡くされ、落ち着きを取り戻す中、『自分自身がまだ経験したことが無いという意味では死は怖いと思いますが、これまであったような底知れぬ恐怖というものは無くなりました。自分の相棒として生きていた暁子が経験したことだからということでしょう。』と死に対しても前向きに言われています。

地域包括ケア構想の中で、国はそれぞれの病院の役割を明確にして整理しようとしています。愛知国際病院は小さいながらも、手術も行い、救急にも対応し、がん終末期やお年寄りの看取りも行ってきました。更に訪問看護、在宅医療にも取り組んでいます。また隣の老人保健施設愛泉館では介護ケアを行い、その中には居宅介護支援事業所や地域包括支援センターもあり、介護予防にも努めています。地域包括ケアシステムを担い実際に行う病院を川原先生は作ってこられました。この会の中で大切にされるのは患者さんでありご家族でありスタッフです。これからも地域にあるみなさんと共に歩む病院としてあり続けるように、川原先生の思いを引き継いでいきたいと思っています。

チャプレン中井の日々雑感 (17)

チャプレン 中井 珠 恵

蒸し暑い日が続いています。最近テレビ番組で、かき氷の店を取り上げることが増えてきました。

かき氷で思い出す患者さんがおられます。その方はベッド生活を送っていました。急に暑くなった7月のある日、その方が自宅近くのかき氷の店について話して下さいました。

「そこはね。夏だけ開いているんだよ。橋を渡ってすぐの店。アイスクリームを作っていてね。それが有名だけど、ぼくの一押しはかき氷。一生懸命自転車で走ってね。汗をかいたあとに食べるのが最高。みぞれが美味しいよ。もうそろそろお店が開く時期じゃないかな。ぜひ行くといいよ」

と、おっしゃいました。

わたしは「美味しそう。ぜひ行きます」と答えながら「仕事が終わってからじゃ、閉店してるかな。週末は予定が入っているから行く時間がないな」と考えていました。

するとその方は「あとで・・・ってことは駄目だよ。行きたいって思ったらそのとき行かなきゃ。ぼくみたいになったら、行きたくても行けないんだから」と、おっしゃいまし

た。その方に自分の心を見透かされているようでした。そして後回しにしたことをできなくなったその方の「あとでは駄目だよ」は、とても強く響きました。いつも「やってみよう」「やらなきゃ」と思ったことにいろんな言い訳をつけて後回しにしてきたことを反省しました。

患者さんの中には、身体の機能が失われ、やりたいことも言いたいことも果たせなくなる方がおられます。またいのちの終わりは、それが近いとわかっている、いつかということがはっきりしません。何月何日までこれをやると先を見据えた生活がしにくくなります。今できることを今やるしかありません。

7月に入ってかき氷を見るたびに「あとでは駄目だよ」という患者さんの言葉を思い出し、「今、本当にしたいこと、すべきことは何だろう」と自分に問いかけています。



賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年1回の「ホスピスだより」と年4回の「みなみやま」をお送りいたします。）

入会
方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口 1000 円（おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします。）

初穂の言いたい放題

「父の思い出」

小児科 井手 初穂

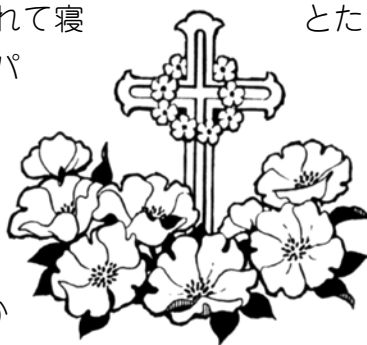
父川原啓美が、5月22日に天に召され、1ヶ月以上が過ぎました。わたしの家に帰ってきた小さな箱の中の父は、もう楽しそうに声をあげて笑わないですが、隣にある写真は、今にも話しかけてきそうに笑っています。

私の一番古い父の記憶は、アメリカ合衆国で父が胸部外科のレジデントをしていたときのものです。いつも不在で、家にいるときは、白いズボンでベッドに倒れこんで寝ていました。後は朝早くに髭を剃っている姿です。いつも母に「パパは疲れて寝ているから静かにしてね。パパを起こさないようにね」と言われて、飛びつきたいのを我慢していました。夫がレジデントをしていた頃、息子が早朝に髭を剃る夫にすがりつき「パパ出かけちゃうの？パパ、また来てね」と大泣きしていたとき、これは医師の子どもの宿命だなとしみじみ思ったものです。

父とは滅多にでかけませんでした。大晦日に遊びに出かけようとする、必ず救急車が来て、出発が遅れます。夜になって出発して、車の中で紅白歌合戦を聞き、宿に着くと蛍の光が流れているということもありました。救急車が来る前に出発しようと、車に籠城してひどく怒られたこともありました。

父は、私たち子どもに寛容でしたが、実は、寛容というよりは、私達の現状をよくわかっていなかったのかもしれない。父は、常に「公の人」で、いつも夢中になってやっていることがありました。あるとき

は難易度の高い手術を成功させること。あるときは夜中の救急処置。医師として、常に病氣と向き合うことに夢中でした。母は、麻酔科医でしたから、いつも父の横にいて共に病と闘う同志でした。私は、小さい頃から姉として留守番のリーダーを務めていました。うっかりしていると後で母に叱られるのでいつも気を張っていました。親に甘えることは許されない雰囲気がありました。陽気な父と、一緒に過ごすときは楽しい会話で私の緊張を和らげてくれていました。いつも、もっとたくさん父と話がしたいと思っていました。



AHIと愛知国際病院を作るときを両親が決心した日、大学生になり弟と東京で暮らしていた私たちの所に、父から電話があり、びっくりしました。「多額の借金をしてAHIを作り、病院を建てたいと思うのだがどうだろうか？」その夜、二人で姉弟会議です。もう両親の気持ちは決まっていることはわかっています。これまでの経験から子どもが嫌と言っても諦めるわけがありません。出した結論は、万が一のときに、まだ若い私達はその多額の借金を抱えなくて済む方法があったら、二人の望むことをしてくれて良いということでした。そのときに私が父につけたあだ名が「夢見るおじさん」でした。父が、新しいことを始めて、生き生きと話してくれるのを聞いて、「また、夢見るおじさんがなんか思いついている」と呆れながら、結構その話を楽しんでいました。晩年、病気になってから一緒に過ごす時間が増えて、たくさんのお話をしました。父と子

どもの頃を埋め合わせるようにたくさんのお話をしました。そして、夢見るおじさんの子どもである私が、いつの間にか「夢見るおばさん」になっていて、父と、いかにして夢を実現させようかと夢中になって話しました。「言い続ければ夢は叶う」が父と私の合言葉でした。

天に召される少し前、父は夢と現実の間でまどろんでいました。ふっと目がさめると、「初穂、今自分がどこにいるのが最近わからなくなるのだよ」と言います。まどろみの中で、いろいろな人に会い楽しい時間を過ごしていて、ひょっとしたら自分はもう天国にいるのかもしれないと思ったのかもしれませんが。父は、いつも「公の人」でしたので、最後まで、お客様には、目を開き、紳士的にきちんと挨拶していました。その父を見るのが、私

の楽しみでもありました。なぜならば、私には目を開くどころか返事もしてくれませんでしたから。そんな父に、亡くなる2日前の夜に話しかけました。父の痩せてしまったけど相変わらず大きな手を握り、「この手と、手を繋ぐことが、子どもの頃大好きだったんだよ。暖かくて大きいパパの手が大好きだった」とすると、父が「それは良かったですねえ」と答えてくれるのではないですか。

それが、父との最後の思い出です。思い出の中にしか父はもういませんが、私の知らない父の思い出を教えてくれる人がこの世にはたくさんいます。その思い出に出会うことを楽しみにしながら、「夢見るおばさん」として、やっていくことにいたします。

NEO!! つぼ健康法 (7)

東洋医学科 鍼灸師 神谷陽歩

みなみやま読者のみなさまこんにちは。

毎年のことながら梅雨の蒸し暑さに少し気分が憂鬱になり、梅雨明けが待ち遠しく感じます。梅雨の時期は体調を崩しやすいので、日々の健康管理には気をつけたいものです。

前回のテーマ、からだの疲れのつぼ健康法はいかがでしたか。疲れの蓄積は様々な病気につながります。ぜひお試しください。

今回のつぼ健康法のテーマは、夏バテ解消法です。

夏の暑さにやられて食欲をなくしたり、クーラーの冷気で体調を崩したりと夏の季節が苦手という方が多くいらっしゃいます。2015年1月の風邪予防にも書きましたが、人のからだは外部からの刺激に対して内部の環境を維持し、季節ごとの気候にうまく適応できるようになっています。したがって本来

は、夏には夏の暑さに適応できるようになるものですが、このような夏の暑さが苦手という人たちの場合は、様々な原因で環境の変化（暑さ）に対する適応力が低下していると考えられます。そこで夏バテのつぼ健康法は、環境の変化に対する適応力を高めるようにします。

お勧めの方法は、昔から行われている摩擦法です。手ぬぐいなどで背骨の両側を赤みが帯びるまで擦り皮膚を刺激します。背骨の両側には、内臓の機能を調整するつぼが多く並んでいます。この刺激で内臓の働きが高まり、相乗的にからだの適応力が向上します。また、胃腸の働きを高め免疫力が向上する足三里へのお灸も効果的です。

夏の暑さには暑さなりのよさもあります。無理に我慢し熱中症になってはいけません。クーラーの効き過ぎは暑さへの適応力を低下させます。冷やし過ぎないように調整し、夏の暑さをのりきりましょう。

病院で行う検査紹介 その4

上部消化管内視鏡検査

副院長 河村 健 雄

上部消化管内視鏡検査とは、食道・胃・十二指腸にスコープを挿入して中の様子を観察する検査です。昔は軟性管の先端に小さなカメラを装着した「胃カメラ」でしたが、ファイバースコープの普及によりリアルタイムに胃内を診ることができる「ファイバースコープ付き胃カメラ」に変わりました。その後接眼部に接続したカメラで撮影も出来るようになり胃カメラは姿を消しました。最近ではビデオスコープに進化しています。ビデオスコープとは、皆さんがお持ちのデジタルカメラについているのと同じ個体撮影素子 (Charge coupled device: CCD) が先端についています。このスコープを手元で上下左右に操作して中を進んでいき、CCDで観察した画像を電気信号に変換しモニター画面に映し出して病気があるかどうかを診断します。機器の発達につれ非常にきれいな画像で観察することができるようになっており、胃癌などを以前より早期に発見できるようになりました。

経鼻内視鏡検査とは

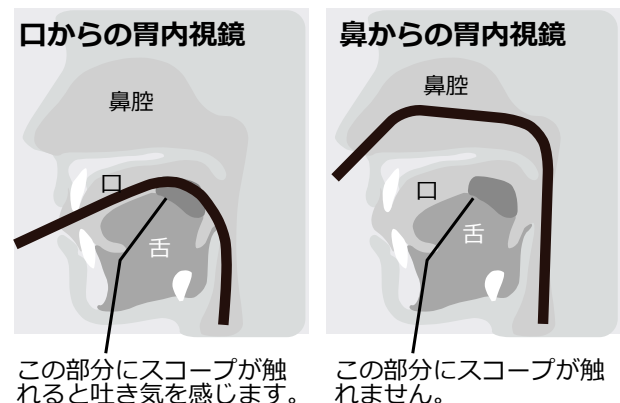
経口内視鏡に比べ細い径 (約 6mm) の内視鏡を鼻孔から挿入する検査です。舌根を通らないためオエッという嘔気を生じにくく、息苦しさもありません。また心臓や肺に与える負担も少ないと言われています。検査中も会話することができるため医師と同じモニタ

一画像をみながら説明を受け、質問をすることができます。咽頭麻酔をしないため、検査後すぐに飲食が可能となります。

問題点は全ての方に経鼻挿入が可能なわけではありません。鼻腔が狭い方には無理をせず咽頭麻酔をして細い内視鏡を口から飲んでいただいています。また装着されている CCD が経口内視鏡に比べ小さく解像度が低いため精密検査には向きません。治療に使用する機器も鉗子口が狭いため使えないものもあります。

経口内視鏡検査は咽頭麻酔が必要で患者さんに負担がかかる一方、画像の解像度が高く詳細な観察が可能です。また止血術や、ポリープ切除術に必要な鉗子を挿入することができ、検査のみならず治療に対応できる利点があります。

上部消化管内視鏡検査を受ける場合にどちらの検査法を選ぶかは担当医師にご相談ください。



ホストファミリー & おでかけボランティア募集!

毎年9月、愛知国際病院の隣にあるアジア保健研修所(AHI)にアジア各国から研修生がやってきます。今年はインド・スリランカ・ネパール・パキスタン・バングラデシュ・ミャンマー・フィリピンの7カ国から13名が参加予定。彼らの日本での思い出作りをお手伝いください!

ホームステイ

2015年9月19日(土) 12:00～

9月20日(日) 20:30(夕食後)

おでかけボランティア

2015年10月4日(日) 12:00～17:00

10月11日(日) 9:00～17:00

AHIからのお知らせ

■研修生との会話は英語となります。

日常会話程度の英語力のある方を募集します。

■事前説明会を下記の日程で開催いたします。

どうぞご参加ください。

7月25日(土)、8月22日(土)

いずれも13:00～16:30

場所はアジア保健研修所にて

お問合せ・お申込は担当:

マクレナン・大熊まで

公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

TEL:0561-73-1950

FAX:0561-73-1990

Eメール:info@ahi-japan.jp

紫苑からのお知らせ

ボランティアコーディネーター 高田清子

このたび退職することになりました。ボランティアコーディネーターとして13年間務めることができたのは、病院スタッフの協力と、患者さんやご家族のボランティア活動への深い理解のたまものです。感謝申し上げます。

「紫苑」のボランティアは、名古屋市内や岐阜県、三重県など遠方の方も多かったのですが、最近では日進、みよし、東郷、豊田市など近隣の方たちが増え、地域にボランティ

ア活動が広がっていることを実感しています。また、当院の外来や病棟、えまい、愛泉館を利用して家族を看取った方が、ここの温かいケアに感謝され「何かお手伝いすることはなにか」とボランティアを希望するケースも増えています。川原先生が留学先のアメリカの病院で、ボランティアが「私たちはこの病院を大切に思っています。私たちの病院(our hospital)だから」という言葉を聞いて感動されたというエピソードを思い出します。

この地域で愛泉会が歩んだ30年間の、ほんの一部ですが、一緒に歩めたことを幸せに感じています。今後は東のぞみさんがボランティアコーディネーターを引き継ぎます。これからも紫苑の活動を見守り、お支え下さいますようお願いいたします。

愛泉館からのお知らせ

布ぞうり作りプログラムのご紹介

愛泉館では、毎週木曜日の午前中、ボランティアの方々のサポートで布ぞうり作りを行っています。

子どもの頃の藁（わら）ぞうりの記憶を懐かしまれながら編み込まれます。色とりどりに出来上がる布ぞうりを、娘さんやお嫁さん、お孫さんひ孫さんにまで、プレゼントされ、贈るほうも贈られるほうも喜んでいらっしゃいます。

ぞうり作りの材料は、不要になったベッドシーツや浴衣、ワンピース…など。7センチ



幅に切り揃えたものを、四つ折りしアイロンをかけるという大変な手



間のかかる下準備は、ボランティアさんがご自宅ですてくださっています。編み上がったぞうりにひときわ花を添える鼻緒もボランティアさんの手作りです。

8月に行われる愛泉館夏祭りでは「よろずやコーナー」でゲスト製作の布ぞうりを地域の皆様に販売いたしますので、夏祭りにお越しになられた際には是非お手に取ってご覧ください。素足で過ごす夏にぴったりの1足がきっと見つかると思います。

ボランティアコーディネーター 浅井真希
老人保健施設愛泉館 0561-74-1711

- ・そろそろ梅雨あけ、夏の日射しが本格的になってまいりました。暑いからといって冷たいものをとりすぎないように気をつけようと思います。
- ・毎年、夏の甲子園地方大会を何試合か観戦するのが恒例になっています。ひいきのチームがあるわけではなく、目標に向かって必死に駆け回る球児たちの姿が、忘れかけていた大切なものを思い出せてくれるのです。

これまでお寄せ頂いているご意見・ご感想、大変感謝致しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

宛先は

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31 愛知国際病院内「みなみやま」編集部
電子メールの場合、アドレスは m.kondo@aisen-kai.jp です。お待ちいたしております。

編集長 近藤正嗣